

感想・メッセージ

高柳宏史先生

〈医師〉

- ・ 僕自身、大学3年生の頃（震災からちょうど1年後の3月）に宮城の方へ行かせていただいたのですが、医師となってから災害における医療に関して講演を聴かせていただき、勉強になりました。
- ・ 日本の歴史に残る大震災に二度も会われたということで、確かに大変で不幸だなど思います。しかし、そこから次に生かすために何ができるか、分析して次につなげる準備をされていることに驚きました。
- ・ 災害はいつおこるか分からない。
“Take home Message” 備えが必要。医療者としては、災害時の医療体制を勉強して災害時、冷静に対応できるように備えが必要。

〈コメディカルスタッフ〉

- ・ 熊本地震は本当に驚きました。実は25歳の娘が熊本に住んでいます。会社は益城町、住まいは中央区。地震時は本当に娘の安否を心配したものです。被災して3日目に娘は平戸の実家に戻ってきました。恐怖でなきじゃくっていました。帰省中は同僚と連絡をとり合い、4月24日には熊本に戻って行きました。泣きじゃくっていた娘ですが、再び旅立つ時は「会社のために何かしたい、熊本のために自分出来る事をしたい」と強い気持ちを持って戻っていきました。少しの間に娘の成長をみることが出来ました。一日も早い復興を願っています。
- ・ ありがとうございます。
少し難しい内容でもありましたが、実際に例を上げながらのお話でしたので、分かりやすかったです。
支援者自身も傷つけないという話が心に残りました。
- ・ 今まで住んでいた家がなくなる、建てたばかりの家が壊れる。
普通の生活だけでも大変なのに、不安とストレスがあったと思います。
行政はどこまで保障してくれるのか？仕事のめどはたてられるのか？
被災者はどう過ごさなければならないのか？改めて考えさせられました。
一時的な問題ではなく、彼等には一生続くのである。精神面の支援も大事なことだと思います。では、私たちには何ができるのだろう。金銭的援助だけでなく、ボランティアや観光に行くことも良いだろう。
多くの方とのふれあい、忘れないことなのではないだろうか？
本日は講演、ありがとうございました。
- ・ 二つの災害を通して総合医としての役割について貴重な話を聞くことができ大変良か

ったです。

実際に被災した場合がどのような対処、対応ができるのかなと考えさせられました。

- ・日常からの災害への対策が必要であるか、考える良い機会であったと思います。
- ・実際の貴重なお話をありがとうございました。
- ・災害とは、いつおこるか分からず、備えが大事であること。自分達で備えに心がけていきます。ありがとうございました。

〈その他〉

- ・災害はおこってからでは遅く、東日本や熊本の地震から学び、おきてからどのように行動するべきなのか、考えておく必要があると感じました。
時期によってニーズが異なるため、支援のタイミングが難しいと感じました。
危険を知らせる情報を受け取ったり伝えることができないような社会的な弱者の方をより早く発見するためにも専門職以外にも地域住民の力が必要だと感じました。
- ・二つの震災を経験され、その時、総合医がどういうことを行っていたのか分かりました。
貴重なお話をありがとうございました。

〈医学生〉

- ・今までは災害医療についてはそんなに考えたことがありませんでした。しかし、東日本大震災、熊本地震という大きな震災を立て続けに経験し、今この何もおこっていない時期に色々なことを考えることが必要だということを痛感させられました。今後はそのようなことも考えながら生活していきたいです。今日は貴重なお話をありがとうございました。
- ・リアルな体験談が聞いて大変感謝しています。
- ・二度も災害を経験されており、災害時に医師としてどのように働くべきが分かりとてもよかったです。
- ・東日本大震災、熊本大震災ともに体験なされた高柳先生の言葉はとても深かったです。特に印象に残っているのは、震災のときに在宅患者さんが家に取り残されたという話です。カルテが無かったら、どこにいるか知る術がない。というのは確かにその通りだと思いました。そういった災害弱者のケアがやはり大事だと思いました。
今日は貴重なお話をありがとうございました。
- ・まず、自分の身にいつ震災がおこるのか怖くなった。しかし、自分は離島・僻地医療に興味を持ち、総合診療医を目指そうと思っていたので、総合診療医が震災のときにどういう役割を果たすべきかを教えてもらってとても良かったと思います。
自分の将来の夢が自分の思う以上に広い範囲で活かすことができることを知れて良かったです。
- ・震災がおこっていない今こそ、コミュニティの健康を増進する働きかけができる。
いざ、震災がおこったとき自分自身が地域のことを知っていて、あるいはすでに顔がみえる関係ができています。ハブとして地域のネットワークに働きかけができています。中・長期的なケアに関われることなど、総合医だからこそできる災害時の働きかけがあるとわか

りました。

学生のうちに震災に向けて備えられることはないか、考えていきたいと思いました。

ありがとうございました。(缶バッチ嬉しいです！笑)

- ・災害医療について自分では思いもつかなかった点がたくさんあり、参考になりました。
- ・スライドの展開が穏やかな印象を受けました。実際にどういうケースがあったのかを匿名等でいいですので紹介してほしいと思いました。

支援慣れや行政職員のメンタルヘルスに関する問題は潜在化しているものも多いので、そういった問題をより多くの人たちが知る機会があればよいと思いました。

- ・今回、二つの震災の経験や震災における総合医の役割などを聞くことができ、とても貴重な時間となりました。

震災時におけるメンタルヘルスケアのやり方は、震災だけでなく日常のメンタルヘルスケアにも用いることができると思いました。

今回学んだことを、今後の学習に活かしていきたいと思います。

- ・実際に体験をされたことを基に話していただいたため、今まで気がつかなかった所にも気づくことができました。災害サイクルの中でそれぞれの段階で出てくるニーズに対し適切に、それぞれの専門職が動けるように学んでいきたいと考えます。

- ・今回は講演ありがとうございました。

実際に経験したからこそ分かる問題を教えていただき、盲点だったなと思うことがありました。とても勉強になりました。

私は総合診療医に興味があります。ですが、総合医の役割を知り、さらに興味深く感じるようになりました。ありがとうございました。

- ・福島と熊本の震災二つも経験されている方はあまりないと思うので、そういった貴重な話を聞いて良かったです。ありがとうございました。

- ・私も当日、熊本におり被災して様々なことを感じ、考えましたが、当時のことで「感じていたが明文化できていなかったこと」を言葉として学ぶことができました。

特に「孤立期」。これから被災者もしくは支援者になるかもしれない者として、正しい知識をもっとつけて正しく準備をして、行動できるようにしたいと思いました。

今日はとても貴重なお話を本当にありがとうございました。

- ・二つの震災を経験されたことを元に、災害現場において医療者の役割等、いろいろな話が聞けて良かったです。あまり知らなかった総合医についての話も聞くことができ良かったです。

- ・災害が発生した際、被災地や被災者を支援することは重要ではあるが、その際に支援者が被災者に迷惑をかけないように気をつけ、そして被災地側も支援に頼らずに復興していく方法をいち早く見つけていく必要があると感じました。

北澤彰浩先生

〈医師〉

- ・私は産婦人科医をしており、看取りは緩和の医師におまかせしてしまうこともあるのですが、今日の講義で目を覚ますような衝撃を受けました。
- ・地域医療の原点が佐久にあったことを改めて感じました。
7年前に佐久を見学して、その時に感じ学んだことが今、めぐりめぐって自分に活かされています。ありがとうございました。
- ・地域医療—とくに高齢者医療について、佐久総合病院のこれまでの取り組みがよく分かりました。
研修医の頃から地域の方の意見を直接聞いたり **feedback** をいただけるのは、とても羨ましいシステムだと思いました。
どのような医療が求められているか、それを知ることで自分のやりたい医療を押しつけるのではなく、地域に親和性の高い医療を提供できる。そのような視点を忘れないようにしたいです。

〈コメディカルスタッフ〉

- ・勉強になりました。ありがとうございました。
- ・医者でも看護師でもないけれど、自分にも何かできることがあるんじゃないかと思えました。
- ・医療の目的の基盤には“その人らしい人生の実現”があるのだと分かりました。病院だけで全てをゴールに持っていくことが困難なことなのだと気づきました。
その人の“人生”に目を向けて関わりが大切なのだと思い、ケアの可能性とできることを提供することについて改めて考えることができました。

〈その他〉

- ・国の政策動向や現状を分かりやすく学ことができました。今よく言われている「住民主体」「予防」「訪問診療」が昭和の時代にされていたことに驚きました。
個人のニーズを知るためには、その人の生き方、生活、家族、地域、文化を幅広く知ることが必要だと改めて分かりました。
遺族訪問やしのぶ会の取り組みはとてもいいと思いました！！

〈医学生〉

- ・人生の最期をどこで過ごすのか、患者さんの意向をくみとって治療をしていくというのは、本当に大切なことだなと感じました。
自分が望むように過ごすことで、最期末まで生き生きと過ごせているのだなとビデオを見て思いました。これからの医療の中で、やはり、患者さんの意思を尊重すべきだと思います。
- ・医療に携わる上で、人の死とは避けて通れないことであり、その時、どのように医師としてふるまうのかをもう一度考えていこうと思いました。

- ・自宅での看取りの割合が非常に高く驚いたと同時に、それを可能にしている病院側の行動が本当に素晴らしいと思いました。
- ・地域住民全員が働きかける必要がある。
患者さんの本当の願いをきく。
部屋の様子などで判断するための観察力。
その人らしい人生のために寄り添い支えることが「医療」。
- ・エンゼルメイクなど本とかで学ぶことができるなら、学生時代に学びたいと思いました。
- ・医療の真髄を見た気がしました。
「本当に“人”のニーズに応える」ということを、もう一度、しっかり考え直してみます。
言葉にできない程、貴重なお話を本当にありがとうございました。
- ・佐久総合病院の先生のお話を伺うのは、2回目でした。
何度見ても劇をするのは面白いなあと思います。
劇をするにしろ、サンタクロースで訪問診療するにしろ、ベースにあるのは患者さんを思い、幸せにしてあげたいというようなお考えかと思います。
エンゼルメイクもとても印象的でした。ありがとうございました。
死まで含めて、その人の人生だよなあと感じました。
- ・今回の講演で「死」や「看取り」に対する考え方が大きく変わりました。
時に、グリーンケアや「死」についての話は、つい最近、身近な人の死を体験した私にとって、とても印象に残りました。
死を人生の集大成ととらえ、故人をきちんと送り出すことは、故人の人生を（生き方を）きちんと認めてあげることと一緒になんだなと思いました。
これから先、地域医療で看取りはとても貴重になると思いますので、今日学んだことを忘れずにしっかり活かしていきたいと思います。
- ・今回、地域医療にとって重要なことを抜本的に教えていただけたと思っています。
患者さんを最期まで寄り添い、考え尽くしていくことの重要性を感じました。

今村祐子先生

〈コメディカルスタッフ〉

- ・今村先生のルーツを辿りつつ、これからの目標がとても分かりやすく伝わってきました。
スライドも大変わかりやすかったです。
- ・自分で道をつくって進んでいく姿が素晴らしいと思いました。
- 〈その他〉
- ・初期臨床研修の時の患者さんに言われたという「患者の意志の尊重」は、医師だけでなく、全ての医療スタッフに通じると感じました。
自らプログラムをつくっていることがすごいと感じました。
医療や社会を知る経験をされた話をもっと詳しく聞きたいと思いました。

〈医学生〉

- ・誰のために医療を行うのかという言葉が印象的でした。
自分の興味があることだけでなく、地域のニーズにあっているかどうかの方がより大事だということに改めて気づかされました。
- ・総合診療医（家庭医）について色々なお話を聞いてよかったです。患者中心の医療の重要性を改めて感じることができました。地域のニーズに合わせた医療は、大切で必要なことだと思いました。
- ・私も時々、なぜ医学部に入っているのだろうという理由があやふやになることもあります。が、実習などを通してその答えをしっかりとみつけていきたいです。
- ・誰のために医療を行いたいかを考え実践を行っていたのだと感じました。
総合診療医は公式的にも漠然としたものなので、そのようなことを考えなければならぬものと考えます。
- ・自分のなりたい医師像を患者におしつけていくのではなく、地域医療に従事していくと決めたからには、その地域のニーズにあった医療を提供できる医師像を目指すべきだなと思いました。
- ・患者のことを思って医療を行っているように感じても、実際には自己中心的な医療を行っていることもあり、自己（医師）中心的な医療を行っていないか自分を客観視していく必要があると感じました。
- ・先生自身の医師となる上での経験を聞いてよかったです。どういった考えで総合診療医になられたのか勉強になりました。
- ・やはり大学に入る前からの医師を目指した理由は忘れがちになると思うので、たまに思い出して初診を忘れないようにしたいと思いました。
- ・学ぶ環境からつくられたということに驚きました。
貴重なお話、ありがとうございました。
- ・能動的な働きが大事だと感じました。
- ・家庭医としての医療の道を選択し、自分から動き始めたことに感銘を受け素晴らしいと思いました。
- ・「私が死んだら遺産はこの病院に寄附しようと思っているんです」と言ってくださるような信頼関係ができているのはすごい！と思いました。
「誰のためか？」を考えながら頑張って将来を探してみたいと思います。
ありがとうございました。

竹下隼人先生

〈コメディカルスタッフ〉

- ・地域に根ざして学ぶことについて熱いメッセージが伝わってきました。

〈その他〉

- ・ 医師としてとても責任感のある先生でとても好感がもてました。
大学時代も部活、勉強、アルバイト、サークルと様々なことに取り組まれている先生でしたが、研修プログラムにおいても色々な科を勉強されている先生で、幅広くすごいなと感じました。

〈医学生〉

- ・ 目指す目標があることで先に進んでいけるんだなと改めて思いました。
- ・ 自分の領域だけでなく、地域のニーズに合わせて肉づけをしていかなければならないと改めて思いました。初期研修の間に自分の将来目指すことだけでなく、地域で働くことを考えると多くの分野を見て視野を広げていく選択肢も教えていただいた。
- ・ 離島地区における医療で地域のニーズに合わせて、多くの分野に対する知識をもつことは、本当に必要なことだなあと感じました。地域での医師は、専門だけでなく幅広い知識をもっていくことが重要だと思います。
- ・ 総合診療医とはかなり抽象的でよく分かりませんでした。しっかり具体的なイメージもつことができました。
- ・ 地域に必要なものとして、総合診療医をもち **subspeciality** として外科をもつという総合外科医という概念を知りました。
新しい概念ではありますが、地域で必要なものだと考えます。
- ・ 自分はずっと地域医療に興味をもち、それならば総合診療医しかないと考えていたけれど、専門性をもった医師が離島に行き、その地域のニーズによって総合的に診ることができる医師になる道があると知ってとても面白かったです。
- ・ 医者になるために勉強に励むことは大事だが知識やサークル、バイトや旅などあらゆる体験をして、医者に必要な社交性や協調性を磨いていくことも大切だと感じました。
- ・ 外科医でありながら金曜日は総合診療もされていてとてもすごいなと思います。これからどういう外科医になりたいかも考えて見習いたいです。
- ・ 僕も将来は総合医になろうと思っているので、竹下先生の話はとてもためになりました。離島医療に貢献したいという思いを絶えず持ち続けていきたいと思います。今度、祖父母が飲んでいる薬を調べてみたいです。
- ・ 総合診療医として外科をやる。外科専門医として地域のニーズに応えるため総合診療するという方のお話を初めて聞いたのでとても勉強になりました。
貴重なお話をありがとうございました。
- ・ 島という未来を見据えた上で、研修医時代に幅広い科を学ぶ姿勢が魅力的だと感じました。
- ・ 総合外科医について知らないことばかりでしたが、地域で求められていることを学んでいった結果が総合外科医だと知り、自分の道が広がりました。

- ・総合外科医という選択は自分が思う医師像に一番近いなあと感じました！
すごくお話をさせていただきたいです。(スライドも面白かったです！)
ありがとうございました。

石川大平先生

〈コメディカルスタッフ〉

- ・選択肢を広げて、将来を見据えるという姿勢が印象的でした。
- ・飯塚病院の「シェアの精神」(同僚・先輩・後輩、共に教えあう)がとても参考になりました。

〈その他〉

- ・医者になりたくないというリアルな思いから、患者さんの命をあずかる重みを感じました。そういった時期を過ごして、今強い思いで医療に従事されていることが受けとれました。医者になる時には、様々な選択肢を自ら選びとり、様々な経験をして医者としての自信になるのだなと感じとれました。

〈医学生〉

- ・医学的知識だけでなく、社会調整の力も必要であるということを知りました。様々な勉強会の中で地域医療を行う上で、社会問題と向き合わなければならないと思っていたのでその力も学生のうちから多くの経験をして培っていきたいと思います。
- ・総合診療科での研修の話を聞いて、総合診療で本当に多くのことを行うのだなと感じました。医者となるにはなるべく多くの経験をしていきたいと思いました。
- ・テンポのいいお話で、研修医期間の生活がすごく生き生きとしているようで、自分も早く医師になりたいと思いました。また、日本にとどまらず、世界にまで目を向けているのは本当にすごいと思い、その壮大さに圧倒されました。
- ・石川先生は機会、機会に運命的なものに出会って進路を判断されているように感じます。しかし、それであってもよいところに入り勉強をしていच्छやるようですので、少し不安がとれました。
- ・自分は今部活をしていてこのままだと部活づけの6年間を過ごしてしまい、医者になってからどうすればいいか分からなくなってしまうと思うので、石川先生のようにいろんな社会経験やワークショップなどに参加していこうと思いました。
- ・重篤患者を減らすためにも医療技術の向上だけでなく、患者をとり囲む社会環境を改善して、病気が深刻化する前に患者が病院に訪れるような環境に変えていくような努力を絶えず、行う必要があり大変だと感じました。
- ・離島・僻地で医療に貢献したという先生の思いは素晴らしいと思いました。これからのことを石川先生も考えていて、やはり自分も目標を見据えたいという思いを抱きました。
- ・飯塚病院のシェアの精神が特に印象に残りました。自分が知っている知識を自分だけのものにしないというのは、チーム医療で大事だということはとても納得しました。

- ・総合診療科の立場のお話を聞いて、だからこそ目指したいと思いました。
貴重なお話、ありがとうございました。
- ・患者は土地柄が出ると感じました。医療だけでなく社会的なケアをする重要性を感じました。
- ・初期研修のことをよく知ることができ、将来の参考になり良かったです。
- ・齋藤先生のプログラムは私もととても気に入っていました。
休学して一年留学に行ったりポスターをみつけて先生にすぐご連絡したり、すごくアクティブだと感じ、すごい！と思いました。
自分も将来像を考えなければとっていて色々悩んだりしていますが、あまり悩み過ぎず、一歩踏み出せるようになりたいと感じました。ありがとうございました。

齋藤学先生

〈医師〉

- ・予想をこえたプログラムがいくつもあって、非常に興味深かったです。
途上国医療と地域医療は親和性が強いと感じました。
歯科や産科にもコミットしている医師はとてもうらやましいです。
- ・対馬の時に聞いた話から具体性が出て、面白いプログラムになっていてこれから楽しみです。
- ・救急専門医で地域に飛び込んで、何もできなかったという話が印象的でした。
日本の地域で育ったGPとオーストラリアで育ったGPでコラボできたら面白いかなと思いました。

〈コメディカルスタッフ〉

- ・様々な地域での医療の実践（経験）によって知識や技術の幅が広がるのだと思いました。

〈その他〉

- ・地域のニーズにあった医療が必要ということで、モンゴルの家が移動する在宅医療は驚きでした。それぞれの土地の文化や背景まで考えて医療を行う必要があると感じました。

〈医学生〉

- ・オーストラリアでの僻地医療の現状というのを初めて聞いて、とても考えることができました。いつも考える日本の僻地の実態とはまた違った視点で考えることができました。
- ・オーストラリアの僻地の医師が本当に何でも診る感じで、私はずっと小さい頃から抱き続けるイメージであり、理想とするものに近いと思いました。
世界に目を向けることはあまりなかったのですが、世界に一度出て視野を広げてから長崎の離島で働いてみるというのもいいかもしれないと興味を持ちました。
- ・以前から、僻地医療が進んでいるといわれるオーストラリアのことを知りたかったので、ちょうどよい機会でした。日本に導入できることがないか探りたいと思いました。
- ・研修プログラムが面白かったです。

南極、バヌアツ、モンゴルにも行ってみたいです。

- ・そもそも、オーストラリアの僻地医療が進んでいると知らなかったのが驚きました。
とても新鮮で、すごいなと思って聞いていましたが、やはり離島にも通じる部分があると思います。
- ・オーストラリアでは、人々が過疎な地域が多く、そのために僻地医療は日本より進んでおり、日本も参考にすべきだと感じました。
- ・オーストラリアの僻地医療のプログラムがとても面白いと思いました。
南極に行ったり、バヌアツに行ったり、モンゴルに行ったりと進んでいると思いました。
- ・オーストラリアの僻地医療がそんなに進んでいるとは知りませんでした。
- ・日本の僻地の医療について学んできましたが、オーストラリアのことは全く知らなかったことに驚きました。
- ・外来・在宅にとどまらず、手術や空での仕事をこなせる幅広さを身に付けたいと思いました。
- ・オーストラリアの独特の教育方法を聞いて、とても興味深かったです。
実際に行って体験してみたいと思いました。
- ・厳しい環境ということで挙げられた例が厳し過ぎてビビりました。

高村昭輝先生

〈医師〉

- ・非常に分かりやすく面白かったです。
自分が学びたいということより、地域に必要とされることを提供する。また、それ以上のものを考えていくことが私も必要だと思います。
- ・今までで一番、学生・初期研修医に響く分かりやすい講演をありがとうございました。
島でもっと勉強をしていこうと思います。対馬 5 年目ですが、地域のことが好きになっています。
- ・日本の医学教育には大学病院しか関わっていないというのは、非常に同感です。
医学生の間から比較的長い期間、地域の病院で **early exposure** しなければ地域で働くにしても想像がつかないし、必要性も実感できないのではと思います。
地域にあるものを最大限に活かして医学教育を私もやってみたいです。

〈コメディカルスタッフ〉

- ・受診に至っていない自覚症状がある人に対しての健康増進活動が重要となってくると思いました。
大きい病院や組織にこだわらない経験値の積み方を考えるきっかけとなりました。

〈その他〉

- ・少ない資源で人を救える人材を育成する必要がある、地域を知り文化、背景、患者のニーズを把握するためにも、医者は地域に出ることが重要であると学びました。

〈医学生〉

- ・とても分かりやすい内容で、先生の姿がやってみたい医師のスタイルと被ったので、先生のような医師を目指したいと思いました。
- ・地域で生活をしていく場にしていく（医療だけでなく）というのが印象に残りました。医療者も社会の軸として働きかけねばと感じました。研修先を迷い始めたところでしたので、お話を伺うことができ光栄でした。ありがとうございました。
- ・病院の外に出て、地域の「ありのまま」を見て、感じて地域のニーズをとることの大切さが分かりました。
- ・大学病院よりも、町の小さな病院の方が患者さんとの触れ合いが多い。また、コモンな病気をコモンな頻度でレアな病気をレアな頻度で診れるメリットがあると感じました。
- ・学ぶ方法も異なり、僻地で手に入る技術も多くあることが分かり、より僻地医療に対するモチベーションが上がりました。
- ・地域医療を考えると、病院の中での医療をいうのをやはり考えがちだったのですが、今回の話を聞いて、見方が変わりました。地域の特色等もきっちり理解することも大切なのだなと感じました。
- ・地域医療についてとても興味があるので、その地域独自の文化や歴史などについても学んで疾患だけでなく、患者の生活背景を考えながら患者の地域中心の医療を行えるような力をつけていきたいです。
- ・心の中に少し思っていたことを覆していただきました。そして、初期研修などのアドバイスもとても勉強になりました。
- ・タジキスタンの赤ちゃんの話は衝撃でした。オーストラリアもだけどそういう所で学ぶのも一つの勉強かなという思いも感じました。
- ・大学病院で先進医療技術を学ぶことも大切だが、大学病院で診ることができる患者や病気は限られているため、地域に興味を持って地域医療に行くこともその地域にとってだけでなく、自分なりにとっても大切であると感じました。
- ・少ない機材で人を助けるため、人材育成が大事というお話は感銘を受けました。
- ・自分も将来、平戸や五島などの僻地医療に携わりたいと思っているので、その地域の医者になれるように頑張りたいです。

中桶了太先生

〈医師〉

- ・お金をもらって義務があっても、6年間の学部教育のあとは考え方も人生も変わっている人が多いと思います。義務ではなく、やる気がある人が行く方が一緒に地域枠で活動している人のモチベーションにもなります。

やはり、仲間や同志がいることはとても大切だと思いました。

- ・家庭医こそ、教育を担うべきだと思っています。

英語を勉強して WONCA に行きたいです。

〈コメディカルスタッフ〉

- ・学校を飛び出して、地域で学生のうちに学ぶことがプロフェッショナル、ジェネラリストになるための一つの選択肢だということが分かりました。

〈その他〉

- ・カナダの地域医療について詳しく学ぶことができました。

〈医学生〉

- ・1,000km 離れたキャンパスとネットでつなげているなど、規模が大きいなと感じました。

医療費は全部、税金から出されるということにびっくりしました。

また、必ずかかりつけの家庭医をもつようにという制度も面白いなあと感じました。

- ・カナダの話は何度聞いてもやはりすごいと思いました。

カナダにも一度、研修や見学に行ってみたいです。

- ・まずカナダのそれぞれの物理的距離の長さや心理的距離の短さを学びました。

大学での勉強も頑張りたいですが、大学の外での学びも大切にしたいです。

- ・「医療と教育は全て平等」というカナダの医療の精神は素晴らしいと思います。

また、カナダは土地が広く、大学や病院までがかなりの距離があり、大変だと思いました。

やはり、地域医療の教育は大事だと思いました。

- ・約 1,000km 離れたキャンパスとネットをつなぎ、解剖の授業などを一緒に行うといった日本にはない発想を知り、面白いと感じました。

- ・カナダの医療事情を聞いて良かったです。

行く機会があるかどうか分かりませんが、「地域医療」を考える上で参考になりました。

- ・カナダのシステムの構築がすごいと思いました。

- ・地域の病院の方々や人々に支えられながら地域で教育を受けることで、より現場が分かり、いい僻地医療を提供できる医師に育つのではないかと興味深かったです。世界の地域医療教育も進んでいるので、様々な国々にも目を向けたいと思いました。

- ・カナダの地域医療に関して色々な話が聞いてよかったです。

僻地での医療現状についてもよく知り、たくさん学ぶことが必要だなと感じました。

- ・カナダの地域医療について詳しく学ぶことができました。

- ・カナダでは僻地医療を充実させるために教育の制度もしっかりしており、地域全体で医学生を支えていることが分かりました。

地域で学び、地域に貢献していて面白かったです。

- ・カナダの地域医療に関して色々な話が聞いてよかったです。

僻地での医療現状についてよく知り、たくさん学ぶことが必要だなと感じました。

- ・閉鎖した病院でシュミレーションできるのは羨ましいです。